



深田久弥

# 山の文化館だより

令和7年  
春号

深田久弥 山の文化館  
〒912-0067  
石川県加賀市大聖寺森場町十八  
TEL 〇七六二 七二一三三  
FAX 〇七六二 七二一八一

## 深田祭 ・ 久弥祭 ・ 九山忌

春は深田久弥に纏わる行事がいくつも行われる。それは、久弥が生まれたのが三月十一日、亡くなったのが三月二十一日、という日取りも関係するのであろうか。

今年も、三月

二十日に九山忌の俳句会が、稲坂謙三や深田久弥が立ち上げた「はつしほ俳句会」によって開催された。深田九山を偲んで多くの俳句愛好家が集まった。

四月二十日には、山梨県韮崎の深田記念公園で「深田祭」が開催される。こちらも、多くの方々が碑前祭に参列される。また、碑前祭のほかにも記念登山なども行われる。

一方、深田久弥のふるさと石川



深田祭祭壇（記念碑前で）



深田久弥 句碑（全昌寺）

では、四月二十七日に「久弥祭」が開かれる。会場は、深田久弥が小学生の時に初めて登った山、富士写ヶ岳の麓にある九谷ダム広場である。富士写ヶ岳を背にして設けられた祭壇で、献酒、献花の後、久弥を偲ぶ俳句が献じられる。そのあと久弥の作品の一節が朗読され式典は終了する。式典終了後には、山頂方位盤に嵌め込まれた写真の深田久弥に会うべく、富士写ヶ岳山頂を目指す。また、山に登らない人を対象に大聖寺の深田久弥山の文化館で、「深田久弥ゆかりの地めぐり」が行われる。



富士写ヶ岳をバックに

### 小林秀雄と深田久弥 そして山

小林秀雄と深田久弥と言えば、まず一番に文学界同人、文士仲間というところであろう。小林秀雄と深田久弥の付き合いは、深田が改造社に勤めていた時代に、友人から紹介されたのが始まりである。とりわけ鎌倉・文学界同人時代には濃密な交わりがあった。鎌倉に

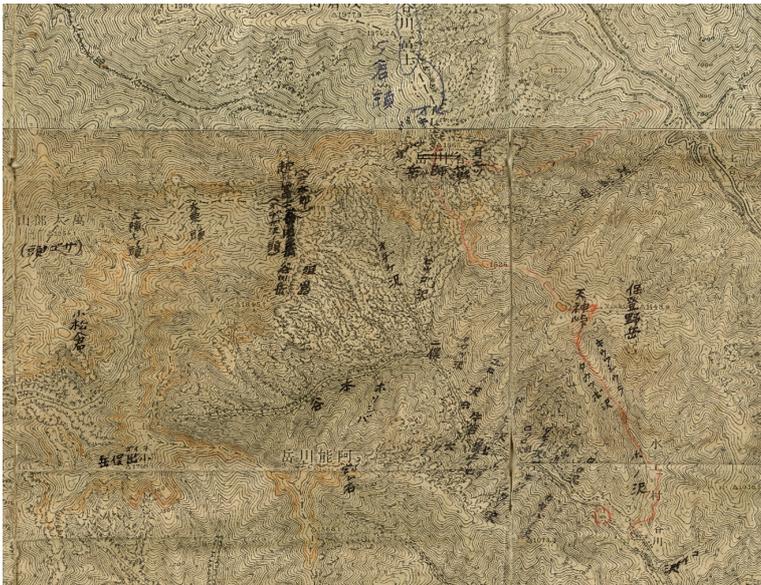
来るよう誘ったのも小林である。そして、引越したその当日に、何人かで久弥宅を訪ねてもいる。

小林と深田の「山」での付き合いも相当なものである。深田は、小林との山歩きについて、「山を歩いている時はお互い無口で、当面の山の話ぐらいいしかないが、黙って歩いていても、気づまりでもなければ退屈でもない」とのことを語っている。小林の山登りは、旧制中学三年の時に友人と一緒にいった、雲取山が始まりだったようである。この山行は道の間違えて遭難一歩手前だった。

小林と深田との山行を調べるため、『人物書誌大系・深田久弥』を取り出した。昭和七年には鳳凰山へ行っていた。この山行には今日出海も同行している。今日出海はこの山行を文章にしており、とても辛かったもので、二度と山には登らないと書いている。昭和八年にはスキーツアー、谷川岳、八ヶ岳、昭和九年には鹿島槍ヶ岳、昭和十年に菅平、志賀高原スキー、霧ヶ峰、昭和十一年に八甲田山（大岳）、十三年に美ヶ原との記録があった。これ以後の記録を見つけないことができなかった。昭和十一年の八甲田山は、共に葛温泉で一夏を過ごした間の山行であり、前年にも、霧ヶ峰で一夏を共にしている。昭和八年の谷川岳行は『日本百名山』『谷川岳』の章に、また、昭和十年の霧ヶ峰は「霧ヶ峰の一夏」（『山岳展望』）に書かれている。

## 久弥と五万分の一地形図と赤鉛筆と

五万分の一地形図「湯澤」と「四萬」を貼り合わせたものがある。これは地勢図「高田」の三番と四番である。第二次大戦後一年ばかりを過ぎた越後湯沢近くの地図である。しかし、越後湯沢周辺には書き込みがなく、谷川岳周辺に多くの書き込みがある。そのほとんどは、書き込みというよりも地名表記を訂正したり、書き加えたものである。赤鉛筆のラインは谷川温泉く天神平く薬師岳（谷川岳）く西黒尾根に引かれている。また、谷川岳く



平標山く三国山にかけての千五百メートル以上の山域が、赤鉛筆で薄く着色されている。

これらの書き込みや赤鉛筆について書いた文章は『日本百名山』の「谷川岳」以外見つけられなかった。家族三人で出かけた谷川岳の紀行「子連れの谷川岳」はあったが、この山行にあたるラインは無かった。

『日本百名山』の文中には、昭和八年秋小林秀雄と谷川温泉に泊まり、翌日天神峠を経て谷川岳に登り、西黒沢を下ったという記述があるが、赤鉛筆のラインは西黒尾根に引かれていた。

「五万分の一の地図に山名が誤記された」との記述に関しては、「谷川岳」が二重線で消され、薬師岳（耳二ツ）と書かれ、オキノミミとの書き込みもある。俎崙のところには「谷川岳」と山名表記がある。現在の地図で「一ノ倉岳」と表記のあるピークは「谷川富士」と印刷されているが、「一ノ倉ノ頭」と書き換えてある。天神平の上の「高倉山」の山名は「保登野岳」と書かれている。また、谷川の、谷川温泉から二俣にかけての多くの枝沢に、沢の名前が書き込まれている。ほかにも多くの山の名前などが書き込まれている。



大イチョウの

芽吹き

桜が咲き

若葉が目を出し

春本番です

## 聞こう会

会場：深田久弥山の文化館 聴山房  
時間：午後一時三十分～三時

五月十八日（日）

演題：能登の植物学者

小牧 旌の生い立ちと植物画

講師：西井武秀氏

（環境省自然公園指導員・

石川県自然解説員研究会）

六月十五日（日）

演題：深田久弥の日記

講師：岩田陽子氏

（福井県ふるさと文学館学芸員）

## 読書会

会場：深田久弥山の文化館

時間：午後一時三十分～三時

四月十八日（金）

『日本百名山』より「斜里岳」

五月二十三日（金）

『日本百名山』より「雲取山」

六月二十日（金）

『日本百名山』より「間ノ岳」

ホームページもよろしく

<https://yamabunkakan.com>

深田久弥山の文化館



山文HP